

---

# 東北大学陸上競技部

## OB・OG 通信

2015年 No.2 (2015.6)

---

- ・岡部大輝(M1)が男子走幅跳で部記録を更新!
  - ・第68回東北学生陸上競技対校選手権大会
  - …男子 3000mSC 田中(M1)、男子 10000m本間(3)の2名が  
全日本インカレ出場権を獲得!!
- 

・東北学連春季競技会	2～3 ページ
・宮城県春季陸上競技大会	3 ページ
・平成 27 年度第一回部員総会	3 ページ
・第 68 回東北学生陸上競技対抗選手権大会	4～15 ページ
・自己記録更新者一覧	16 ページ
・今後の予定	16 ページ
・編集後記	16 ページ

緑樹の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より皆様の並々ならぬお力添えをありがとうございます、部員一同感謝の思いを抱きながら日々練習に励んでおります。

今号では、第68回東北学生陸上競技対抗選手権大会の結果を中心にさせていただきます。

### ◎東北学連春季競技会(4/11～4/12) 於 仙台市陸上競技場

シーズン初めの今大会には多くの選手が出場しました。出場選手が多かった種目を中心に結果の一部をお伝えします。

#### ◆男子 100m

組(風)	氏名(学年)	順位	記録
1組(+2.4)	宮崎幸辰(3)	2着	10"80
4組(+0.9)	工藤知央(4)	5着	11"44
5組(+1.7)	竹原大(4)	5着	11"41
6組(+0.9)	櫻井直輝(3)	6着	11"43
7組(+1.2)	藤井圭祐(2)	1着	11"38
〃	楠木啓介(2)	8着	11"99
8組(+2.1)	本間大輔(M1)	5着	11"61
〃	佐藤文哉(3)	6着	11"64
9組(+2.0)	畑岡進(5)	2着	11"44
10組(+1.2)	佐藤弘隆(3)	3着	11"67
11組(+0.8)	大衡竜太(2)	3着	11"86
13組(+1.4)	森野太介(2)	5着	12"00
14組(+2.4)	渡邊裕一郎(2)	6着	12"08
20組(+1.3)	津嶋優希(2)	1着	11"96

#### ◆男子 200m

組	氏名(学年)	順位	記録
4組(-1.4)	畑岡進(5)	4着	23"65
〃	竹原大(4)	8着	23"80
6組(-1.4)	矢川省吾(2)	5着	23"87
7組(-1.6)	本間大輔(M1)	4着	23"79
〃	大衡竜太(2)	8着	24"32
9組	津嶋優希(2)	7着	24"76
10組	櫻井直輝(3)	2着	23"98

#### ◆男子 400m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	佐藤洋介(4)	4着	50"45
2組	水戸部慶彦(2)	4着	51"74

〃	菅原大志(4)	5着	53"86
3組	畑岡進(5)	2着	51"18
〃	矢川省吾(2)	3着	51"86
4組	増田俊太郎(4)	3着	52"82
6組	渡邊俊(2)	3着	54"58
12組	荻原大樹(4)	4着	55"95

#### ◆男子 800m

組	氏名(学年)	順位	記録
1組	佐藤洋介(4)	2着	1'56"75
〃	西京毅(3)	5着	1'58"89
2組	朝比奈祐弥(4)	4着	2'02"67
3組	松田将大(1)	5着	2'02"89
〃	田中翔悟(3)	6着	2'02"89
4組	高橋慧伍(4)	6着	2'06"25
5組	佐藤宏夢(1)	2着	2'02"38
6組	渡邊俊(2)	2着	2'04"25
7組	千葉智史(2)	6着	2'10"11
9組	荻原大樹(4)	5着	2'09"38

#### ◆男子 5000m

組	氏名(学年)	順位	記録
4組	本田雄生(3)	9着	16'03"93
〃	早坂謙児(3)	16着	16'21"88
〃	南雲信之介(4)	25着	16'48"99
〃	北原慶汰(4)	26着	16'48"99
5組	田中直樹(M1)	5着	15'03"21
〃	酒井啓一郎(2)	27着	16'06"79

#### ◆男子 10000m

組	氏名(学年)	順位	記録
---	--------	----	----

1組	高橋佳希(4)	1着	31'32"90	関俊樹(2)	13着	33'49"70
	本間涼介(3)	2着	31'52"83	南雲信之介(4)	14着	33'51"51
	出口武志(3)	3着	32'02"00	早坂謙児(3)	16着	34'22"32
	酒井啓一郎(2)	6着	32'58"18	西井大樹(M1)	18着	35'07"58
	進藤克哉(4)	10着	33'14"03	根津勇介(2)	19着	36'43"39
	本田雄生(3)	11着	33'40"49	森渉(2)	20着	38'35"87

◎宮城県春季陸上競技大会(4/25～4/26) 於 ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城県陸協に登録している選手しか出場できない大会ということで出場者は限られていましたが、我が東北大学陸上競技部からの入賞者を紹介いたします。

◆男子 800m

佐藤洋介(4) 1位 1' 59"36

◆女子 800m

加藤かあら(3) 5位 2' 24"22

◆男子 4×400m

岡部(3)-畑岡(5)-佐藤洋(4)-菅原(4)  
5位 3' 24"36

◎岡部大輝(M1)が男子走幅跳で部記録を更新！

4月25日に行われた仙台大競技会において岡部大輝(M1)が男子走幅跳で7m43という好記録を出し、2013.5.19に岡崎和貴(4)が東北インカレで出した7m33というこれまでの部記録を10cm更新しました！

◎平成27年度第一回部員総会(5/9) 於 片平さくらホール

5月9日、片平桜ホールで平成27年度第一回部員総会が行われました。

佐藤会長、彦坂副会長、吉田監督から挨拶がありました。

平成27年度活動予定の報告などの後、新入部員の紹介が行われました。最後に、出席して下さった先輩方より一言ずついただきました。

★出席して下さった先輩方(敬称略、大学院生を除く)★

佐藤健二、佐藤源之、眞山隆徳、彦坂幸毅、菅野均志、久保正樹、吉田真人

◎第 68 回東北学生陸上競技対抗選手権大会(5/15～5/17)

於 ひとめぼれスタジアム(利府)

結果は、男子総合 3 位、男子トラック 3 位、フィールド 3 位、女子総合 7 位、女子トラック 7 位、フィールド 7 位でした。今年は全日本インカレ出場者が三名輩出された他、上位入賞者も多数みられました。

☆トラック

**男子 100m 予選**

**1-6 7 着 森野太介(2) 11"88 (-1.2)**

スタートの反応は良かったが上体が起き上がってしまった。後半にかけて前との差を縮められただけに、前半に差をつけられたのが痛かった。組 7 着でフィニッシュ。

**4-9 5 着 藤井佳祐(2) 11"53 (-2.1)**

スタートからスムーズに加速できていた。中盤から後半にかけては少しフォームにバラつきが見られ頭のブレが目立ったが、スピードは崩さず最後まで前から離れずまとまったレースで準決勝進出。

**5-6 4 着 櫻井直輝(3) 11"50 (-2.3)**

スタートで速い選手に抜かれたが、素早いピッチのまま安定したフォームで中盤から後半にかけては競っていた選手達から一つ抜けだして 4 着でゴールし準決勝進出。

**男子 100m 準決勝**

**2-1 7 着 藤井佳祐(2) 11"57 (-1.8)**

周りの選手が速く、スタートダッシュで差がついたが、食いついて最後までついていくことができた。予選と比べフォームは安定していたが風の影響もありタイムはあまり伸びず、組 7 着でゴール。

**3-8 6 着 櫻井直輝(3) 11"63 (-2.4)**

スタートは周りにあまり離されず、安定した加速であった。予選と変わらず素早いピッチでついていったが後半は少しフォームのバラつきが見られた。強い向かい風でタイムは伸びなかった。組 6 位でゴール。

**女子 100m 予選**

**2-8 6 着 吉村梢(2) 13"35 (-1.2)**

スタートで出遅れたが落ち着いてスムーズに加速していった。周りの選手が速く、前半で差をつけられたが中盤・後半で安定したフォームを崩さなかった。組 6 位でゴール。決勝進出はならなかった。

**男子 200m 予選**

**1-3 1 着 宮崎幸辰(3) 22"02 (-1.3)**

いつもに比べ持ち味のスタートにキレがなかった。後半は足が回っていたものの前半スピードがないのでタイムは伸びなかった。しかし、組 1 位は譲らず準決勝進出。

**3-5 5 着 千葉優人(5) 23"15 (+0.1)**

落ち着いたスタートからの加速であった。コーナーを過ぎてからじわじわ前を追ったが追い切れずゴール。プラスで準決勝進出。

**4-5 3 着 阿部耕大(3) 22"97 (-0.3)**

スタートから先頭近くで走り、安定したリズムで 3 位につくと、最後は流し、着取りで準決勝進出。

**男子 200m 準決勝**

**1-8 3 着 阿部耕大(3) 22"32 (+1.2)**

スタートからスムーズに加速。前半内側の選手に先行されるが焦らずについていき、ホームストレートに入って前の選手をかわし、スピードを落とすことなく 3 位でゴール。惜しくも全体 9 位で決勝を逃した。

**2-2 7 着 千葉優人(5) 22"93 (-0.4)**

前半から積極的に飛ばしていた。コーナーを過ぎて真ん中あたりにつけていたが周りが速く、後半はじわじわと後退した形でのゴールであった。

**3-5 1 着 宮崎幸辰(3) 22"10 (-0.5)**

予選の調子から回復することはなく、同じようなレース展開であった。後半はスピードが出ずに力んだせいか予選よりも足のタイミングが合っていなかった。辛くも組1着で決勝進出を決めた。

決勝は足の不調のため棄権した。

#### **女子 200m 予選**

**1-9 5着 吉村梢(2) 26"75 (-0.8)**

スタートからコーナーで前半型の選手に置いて行かれる形になったが、100mを過ぎてからじわじわと前を追い、2人を抜かして5位でゴール。決勝進出を決めた。

#### **女子 200m 決勝**

**8位 吉村梢(2) 26"87 (-4.0)**

スタートの反応が良く、勢いよく飛び出した。周りが格上の選手ばかりだったためカーブで出遅れるがホームストレートに入ってから切り替えて前を追った。惜しくも追い切れず8位でゴール。

#### **男子 400m 予選**

**1-4 4着 水戸部慶彦(2) 51"17**

スタートは勢いよく出て、ピッチが安定してからは落ち着いた足さばきでカーブ抜け、前の選手を追った。300m付近までスピードをキープしてからラスト100mの切り替えが良く、300mまで競っていた選手と差をつけることができたが、前の選手とは差がついていて追い切れず4位でゴール。

**2-8 3着 矢川省吾(2) 51"39**

スタートから200mくらいまで大きなフォームでかなり勢いよく走っていたが、200m過ぎからピッチが落ち、ラスト100mは苦しい走りになった。組3位でゴール。

**3-7 4着 竹原大(4) 52"37**

スタートから落ち着いたピッチで先頭付近を走り200mまで過ぎる。いつもより前傾し、ストライドを大きめに走っていたが、200mを過ぎた辺りで上体が起き上がり、

ストライドが徐々に縮んでいき、ラストは苦しそうな走りで4位でのゴールとなった。

**4-4 4着 佐々木要(2) 50"72**

前半はスムーズにスピードに乗せていくことができたがラスト300mからの直線での粘りが足りなかった。しかし、シーズンベストを更新したので、今回の反省点を生かせば、次回以降のレースで更なるタイム向上を狙えるだろう。

#### **女子 400m 予選**

**1-3 6着 加藤かあら(3) 61"02**

スタートから大きなストライドで100~200mまで前についていく。300m付近で3,4位辺りにつき、外側の選手と競っていたが、スパートが決まらず少し後退してのゴール。非常に惜しいところで決勝を逃した。

**1-5 8着 久道瑛未(2) 64"88**

大学初レース。スタートから足を大きく上げて積極的なフォームで100~200mまで走っていたが、周りに差をつけられてしまった。後半、前を追うが動きが硬くなってピッチが落ち、後ろでのゴールとなった。

**2-8 8着 吉田歩(3) 74"20**

こちらは400m初レース。スタートから徐々に遅れるが自分のペースで200mまで走る。後半はフォームのバラつきが増えてストライドが落ち、苦しいゴールとなった。

#### **男子 110mH 予選**

**1-7 5着 工藤知央(4) 15"70 (-0.5)**

スタートの反応は良く、1,2台目までほぼ先頭で走っていたが、加速がうまくはまらずじわじわと後退し、組5位でゴール。

**2-8 4着 本間大輔(M1) 15"88 (-0.9)**

緊張したのかスタートからフォームが固く、ハードルに何度か強く足をぶつけて加速がうまくいかないままのレースとなってしまう、前を追い切れず組4位でゴール。

**3-9 5着 楠木啓介(2) 16"30 (-0.1)**

スタートで周りに差をつけられた。前半からゆったりした加速だったが中盤から後

半にかけて差を締めきれず組 5 位でゴール。

### 男子 400mH 予選

1-5 6 着 増田俊太郎(4) 57"64

スタートから 1 台目までほぼトップで通過。バックストレートで内側の選手に迫り、体力を使ってしまったか第 3 コーナー過ぎで足が詰まってしまった。その後ハードリングはうまく修正したがペースは落ちたまま 5 位でゴール。

2-8 4 着 工藤知央(4) 56"22

前半積極的に飛ばし、きれいなハードリングで 200m 近くまで先頭付近で走っていた。200m 過ぎから上体が起きて足が上がらなくなってしまい、後半は苦しい走りとなった。組 4 位でゴール。

3-2 7 着 楠木啓介(2) 59"98

スタートから大きなストライドで余裕のある加速をし、バックストレートでは後ろのほうで走っていた。後半にかけて切り替えたかったがうまくいかず、ずるずると余裕のない走りになってしまった。

### 女子 400mH 決勝

6 位 浅見恭子(4) 67"61

前後の選手に惑わされることなく前半からスムーズに加速していった。6 台目から足が合わずにハードル前後で減速してしまっていたが最後まで粘り 6 着でゴール。

### 男子 4×100m 予選

1-6 4 着 43"29

竹原(4)-藤井佳(2)-矢川(2)-櫻井(3)

竹原：勢いのあるスタートから、スムーズな加速であった。そのまま中盤に差し掛かり、この時点で内側の岩手大に少し詰められたが、先頭付近でバトンパスに移った。

藤井：バトンはかなり詰まった。スタートがうまくいかなかったか、その後の加速もうまくいかず、先頭からは離れてしまい真ん中あたりに順位が下がる。

矢川：バトンは少し離れてしまった。周りの大学との差を少しずつ締めながらも、締めきれずにバトンパスに移った。

櫻井：バトンパスに少し時間がかかってしまった。岩手大、山形大に続いて、宮教大とほぼ同時にバトンパス。後半ジワリと後退し胸の差で負けてしまい、4 位でゴール。

### 男子 4×100m 決勝

5 位 42"26

宮崎(3)-阿部(3)-竹原(4)-櫻井(3)

宮崎：スタートで大きくはないが周りに差をつけ、上手にカーブを捌いてほぼ先頭でバトンパスに移った。

阿部：バトンは問題なくこなし、先頭付近を走る。最後に岩手大に少し離されるも、ほぼ先頭で 3 走にバトンパス。

竹原：バトンパスはうまくいった。スタートの加速は良かったが周りの選手が速く、置いて行かれる形になった。粘って食いつき 3 位あたりでバトンパスに移った。

櫻井：表彰台を狙うきわどい勝負となった。青森大、東北学院大と競っていたが勝ちきれずに 5 位でゴールした。

### 女子 4×100m 決勝

7 位 51"94

渡邊(3)-吉村(2)-後藤(4)-加藤(3)

渡邊(朝)：走幅跳の疲れがあったかスタートは出遅れ気味。スピードに乗ってからは離されることなくバトンパスに移った。

吉村：バトンは滞りなくパスできた。周りのエースの選手に離されることなく安定した加速で 3 走までつないだ。

後藤：バトンは少し詰まったか。前の選手には離されたが、周りの競っていた選手からは遅れることなくバトンパスに移った。

加藤：バトンは間延びしてしまった。大きなストライドで前の選手を追う。最後は八戸学院大と競るが惜しくも勝ちきれなかった。7 位入賞。

### 男子 4×400m 予選

2-7 3着 3'20"66

阿部(3)-畑岡(5)-水戸部(2)-千葉(5)

阿部:スタートから安定したピッチで300mまで進んでいった。後半にかけてピッチが落ちそうになるがフォームをキープして東北福祉大、岩手大に続き3位でバトンパス。  
畑岡:スタートから勢いよく出て200m地点で東北福祉大を捉えた。最終コーナーで動きが固くなるも最後にまた後ろに差をつけてバトンパスをした。

水戸部:前半は抑え目のスタート。バックストレートで東北福祉大に抜かれるも焦らずについていく。ラスト100mで切り替えて前を追ったが追い切れず3位でバトンパス。

千葉(優):非常に上手なバトンパスで前との差を少し縮め、そのまま前と同じペースでついていった。前とも後ろともある程度の差があり、その差のまま3位でゴール。着取りで決勝進出を決めた。

### 男子 4×400m 決勝

6位 3'19"40

阿部(3)-畑岡(5)-千葉(5)-佐藤(4)

阿部:スタートから安定したピッチで200mを過ぎる。ラスト100mで5位あたりにいたが、最後に粘り山形大をかわし4位でバトンパス。

畑岡:予選同様、前半から飛ばし、200mで学院大をかわして4位でラスト100mに差し掛かる。最後動きが固くなるが、6位でバトンパスに移った。

千葉(優):冷静に前を追い、ラスト100mまで順位を維持する。ラスト100mで切り替えて前の選手と競っていくが勝ちきれず6位のままバトンパス。

佐藤(洋):バトンをもらい、前の東北学院大を追う。直後に福島大が迫り、ラスト100mで三つ巴になるが、学院大をかわし、福島大には胸の差で勝ちきれず6位でゴール。

### 女子 4×400m 決勝

7位 4'12"98

吉村(2)-加藤(3)-井出(4)-渡邊(3)

吉村:勢いよくスタートし、100mまでの加速はスムーズであった。1つ外の福島大に離され、前を追うのが難しくなったがスピードを維持したまま最終コーナーを回り、粘って6位くらいでバトンパスした。

加藤:6位のまま200mまで維持し、5位の東北学院大をすぐ前で追う形になったが、ラスト100mで少し差をつけられ6位のままバトンパスに移った。

井出:スタートから素早いピッチで前を追った。200m過ぎからピッチがだいぶ落ち、7位の八戸学院大に迫られたが最後に粘って6位をキープしてバトンパスに移った。

渡邊(朝):100m辺りで八戸学院大に越される。八戸学院を追うが、三段跳の疲れが残っていたか、最後に差をつけられてのゴールとなった。



△吉村から加藤へのバトン渡し

### 男子 800m 予選

1-5 5着 田中翔悟(3) 2'06"43

力まずゆっくりとしたスタート。200mまで軽い調子で走り200mから500mまでは集団の中で走る。その後集団から離れ、余力を残したままフィニッシュ。

2-5 1着 佐藤洋介(4) 2'02"52

レース序盤は集団の後方で200mを通過する。300を通過したあたりから前に出始め、1周目を61"で通過。7人の集団の中



ほどでレースを進め、ラスト 100m で 5 人  
をかわし、1 着で予選通過。

#### 4-3 4 着 松田将大(1) 2'02"76

他の選手の入りが遅く、先頭で引っ張る  
展開。400m 通過は 60"。500m まで先頭を  
維持したが、バックストレートで集団にポ  
ケットされる。ラスト 100m までタイミン  
グをうかがい、隙間ができたところでスパ  
ートをかけて着順圏内に入り、最後は流し  
て余裕をもってフィニッシュ。

#### 男子 800m 準決勝

#### 1-6 2 着 佐藤洋介(4) 1'58"29

集団の後方でレースをすすめる。400m の  
通過は 62"。450m のあたりから前に出始め、  
バックストレートで中ほどまであがる。周  
りの選手との小競り合いが目立つ。ラスト  
200m は 5 人で競り、福祉大、岩大の選手  
とほぼ同時にゴール。1.58.29 で 2 着、決勝  
に進出する。



△800m を走る佐藤

#### 1-9 4 着 松田将大(1) 2'03"60

落ち着いて入り、集団の真ん中付近の外  
側に着く。200m 通過以降は先頭がペー  
スを落としたため前に出て 2 番手に着いたが、  
1 周目 63"でそこから全体のペースが一気  
に上がる。500m 通過までに 2 人に抜かさ  
れ、先頭 3 人には付いて行けず、独走状態  
で 4 着でゴール。

#### 3-2 6 着 田中翔悟(3) 2'00"34

予選と同様に力まずスタートするが、1  
周目を通過するまでやや外側を走る。500m

から集団のペースが上がるが少し出遅れ  
600m で前に追いつく。その後集団から少  
し離され、そのままゴールする。

#### 男子 800m 決勝

#### 8 位 佐藤洋介(4) 2'30"41

スタート後は集団の後方でレースを進め  
る。200 通過あたりから中ほどへ。1 周目の  
通過は 61"。500m 付近で富士大の選手が前  
に出る。佐藤は 5 番目あたりでまだ落ちて  
いる雰囲気。600m 付近で岩大の選手  
がスパートをかけ、ついていく。ラスト 50m  
で、福島大の選手と接触しかけ、転倒。歩  
きながらもゴールする。

#### 女子 800m 予選

#### 1-6 7 着 梶山あずさ(4) 2'33"77

1 周目を 71"でまわり、集団の後方につ  
ける。600m までは前に食らいついていた  
がラスト 200m で粘りきれず、7 着でゴール。

#### 2-8 4 着 加藤かあら(3) 2'25"10

8 レーンからのスタート。位置取りはう  
まくいったものの、先頭のペースが速く 1  
周目でバテてしまう。600m 付近までは  
ペースを維持できたがラストで切り替えら  
れず、そのまま減速してゴール。

#### 3-4 6 着 井出桃愛(4) 2'34"49

前半は速めのペースで入り、400m を 68"  
で通過。2 周目は、組全体のペースが 1 周  
目に比べて落ちていたが前に追いつけず、  
600~700m にかけてかなりスピードを落  
とし、そのままフィニッシュとなった。

#### 男子 1500m 予選

#### 1-6 6 着 大野慎也(4) 4'13"45

スタートと同時に先頭につき 1 周目は 2  
番手で通過する。その後は徐々に後続に追  
い越されてしまったが最後は粘って 6 着で  
フィニッシュ。組は違うのに朝比奈と同  
タイムを出し、2 人そろって決勝に進出する。

#### 2-15 6 着 朝比奈祐弥(4) 4'13"45



スタートから2番の位置をキープしながら1周目2周目と走るも3周目のバックストレートでポケットされる。そこから一旦後ろに下がり集団をかわし、前の集団につき直す。ホームストレートからラスト1周に入るところで先頭につきペースをあげるもラスト失速し、6着でゴールしプラスで決勝にすすんだ。

#### 2-8 10着 西京毅(3) 4'18"70

スタートから集団前方でレースを進める。ペースが遅く、集団が横に広がっており、何度か接触した。途中でよろける場面もあった。ラスト500mあたりから集団のスピードが上がり始めたが、西京はついていくことができなかった。

#### 男子 1500m 決勝

##### 7位 朝比奈祐弥(4) 4'11"65

前に飛び出した2人を追う形になる。いいペースで進む選手の後ろにつき、ラスト1周で先行していた2選手をかわし、3人でのラストスパートとなる。ラスト200mあたりからうまくスピードに乗れず、失速し着いていけなくなる。ホームストレートでは苦しい走りとなり、後続の選手に抜かされ、粘りきれず7着となる。

##### 11位 大野慎也(4) 4'22"15

先頭がかなり速いタイムではいる中、6番手あたりで単独でレースを進める。風がとても気になるコンディションであった。前方の4位集団にくらいつくことができずズルズルと順位を下げる。ラストスパートも上げきれず、11位でフィニッシュ。

#### 女子 1500m 決勝 タイムレース

##### 13位 榊原真璃子(4) 5'03"48

スタート後は飛び出さず、様子を見ながら5番手を確保。宮教、山形と2位集団を維持し、残り1周直前で宮教を追い上げ、集団の先頭に出る。バックストレートで山形の追い上げに屈せず、先頭を維持し、最終的に組3着でフィニッシュ。

##### 18位 飯田夏生(1) 5'22"23

スタート直後は速めにつしたが、そのあと少し抑えて1周目を79"でまわる。榊原について行こうと頑張るが、600mもたない。1000の入りは3'30"ほどでやや遅め。ラスト500は粘りの走りを見せた。全体的に消極的なレース展開だったが1年ぶりの試合だったので今後に期待したい。

##### 21位 卜部仁美(3) 5'32"35

序盤は全体が集団となりその中の最後尾につき、400mは79"で通過。集団後方がばらけはじめ、700mあたりから徐々に前と離されはじめた。後半は疲れてずるずるとペースが落ちてしまった。

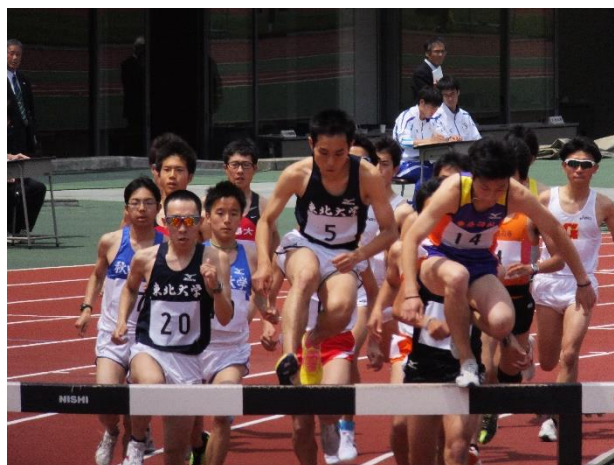
#### 男子 3000mSC 決勝

##### 1位 田中直樹(M1) 9'33"21

##### 2位 高橋仙一(3) 9'47"22

##### 8位 南雲信之介(4) 9'58"96

スタートの時点では田中、高橋は先頭のすぐ後ろにつけ、南雲は集団の中ほどで走る。ややスローペースの入り。1500mで田中が先頭に出て、高橋は第2集団、南雲は第3集団で走る。2000mでは田中は余裕の表情で単独トップ、高橋は4番手、南雲は8番手で全員が得点を狙える位置。田中はそのまま逃げ切り、2番手と50m以上の差をつけてゴール。高橋は3番手に浮上し、ラストの2位争いに勝って2位でフィニッシュ。南雲は8番手。全員が入賞し、田中は全日本ICへの出場を危なげなく決めた。



△障害をとぶ田中、高橋

### **女子 3000mSC 決勝**

**3位 宮間志帆(4) 11'22"83**

序盤は積極的に先頭についていき、1000mは3'35"で通過。中盤ペースが落ち、先頭から離され3.4番手で併走をつづけた。水濠ごとに徐々に前と離されたが、ラスト1000m付近で転倒した3番手をかわし、表彰台圏内に。ラストは持ち味のスピードを発揮し、そのままフィニッシュ。自身も狙っていた日本学生陸上競技個人選手権大会の標準を突破し出場を決めた。

### **男子 5000m 決勝**

**2位 高橋佳希(4) 15'06"90**

**3位 出口武志(3) 15'11"65**

**6位 田中直樹(M1) 15'24"74**

田中が先頭を引っ張り、出口がそのすぐ後ろにつける。高橋は第2集団の先頭。前の2人の1000mの通過は2'57"ほど。1200mで7番手の高橋が徐々に先頭集団に追いつき始める。先頭は1000mから2000mを3'00"で通過する。依然として田中が先頭を引っ張り、出口がその後ろにつける。高橋は4番手で、先頭集団は6人。3000mでラップが大きく落ち、3'08"で通過する。出口が先頭に出て、疲れの見える田中は先頭集団から落ちていく。3600mを通過したところで出口が若干ペースを上げて後方を離すが、再び集団に吸収される。この時点で集団は4人にまで絞られた。4200mで田中が5位になるが、7位集団が近づいている。ラスト1周、福祉大がスパートをかけるが2人ともついていけない。そのまま高橋は2位でゴール。出口は4番手につめられるも、逃げ切り3位でフィニッシュ。田中は6位。

### **女子 5000m 決勝**

**8位 宮間志帆(4) 18'15"75**

**15位 榊原真璃子(4) 18'58"39**

入りの1000mは宮間、榊原ともに3'30"前後、第二集団につけた。宮間は集団のま

ま前を追う。榊原は集団から遅れ、単独走となる。3000m手前から宮間が8位集団をひっぱる形になり、失速した榊原は後方集団との差が縮まり吸収される。4000m付近で宮間が集団を引き離しはじめ、後ろと僅差の単独8位となる。榊原は吸収された集団に食らいつき粘りの走りを見せる。宮間はラスト200mできっちり後ろを引き離し8位でフィニッシュ。榊原もラスト1000mで再びペースアップし走りきった。

### **男子 10000m 決勝**

**1位 本間涼介(3) 31'44"65**

**2位 高橋佳希(4) 31'57"90**

**8位 進藤克哉(4) 33'26"82**

高橋はスタートから先頭で集団を引っ張る。本間は3番手でレースを進める。進藤は第2集団の後方に位置し、落ち着いた入りをする。高橋、本間は最初の1000mを3'07"、進藤は3'11"ではいる。2400mから他大の選手が離れ、高橋と本間の2人旅が始まる。進藤は3000mまでは10番手で番手の狙える位置で走る。5000m地点では前の2人は3番手に50m以上の差をつけて先頭をひた走る。進藤は9番手で8番手の後ろにつける。5800mで本間が高橋を抜き先頭に出る。本間はラスト1000mで更にペースを上げて高橋を引き離し、本間が1位、高橋が2位でフィニッシュ。進藤はラスト3000mで8位に浮上し、9番手を引き離す。そのままラストスパートもしっかりかけて8位でゴール。本間は去年に続き、今年も全日本インカレへの出場権を獲得した。

### **男子 10000mW 決勝**

**8位 早坂謙児(3) 49'59"72**

**11位 及川一真(1) 51'42"33**

**13位 森渉(2) 57'19"19**

入りの400mを早坂、及川は1'40"で、森は2'00"で通過する。先頭集団から離れ、2人は7、8位の位置で歩く。最初の1000mは4'28"。2000m地点、及川は早坂に離さ

れて後方の選手に追いつかれるが、早坂は先頭集団からこぼれた1人に近づき、追い越して7位に浮上。及川は3人で8位争いをするようになる。森は後方で確実に歩を進める。3200mで及川は8位争いから脱落、早坂もペースが落ち始め、4000mあたりで8番手が近づいてくる。3人とも1人旅となる。5000mまでは周りが続々と警告をもらうなか、3人とも歩形がずれず、警告をもらうことなく歩くことができていたが、5000m過ぎで及川が警告を1つもらう。そしてこの地点で、早坂は8番手に落ち、及川は9番手争いを2人でする。早坂、右ひざが少しあやしい。6000mで早坂は7位に追いつくが、また離される。7200mで及川、2つめのベントニー。8000mで及川は抜かされて10位に。早坂はそのまま8位でゴール。及川は11位、森は13位でフィニッシュ。今後の競歩選手の躍進に期待したい。

#### **女子 10000mW 決勝**

##### **4位 西條詩織(3) 58'36"16**

序盤から先頭にはつかず、終始単独でレースを進めた。中盤まではペースを落とすことなく淡々と歩き、5000m付近で前を1人とらえ4番手につけた。一度は3番手との差を20mほどにまでつめるも、7000m～8000mでペースを落とし再び離される。ラスト1000mは持ち直し4位でフィニッシュ。自己ベストを大きく更新した。

#### **☆フィールド**

#### **男子走高跳**

##### **2位 山田健太郎(M1) 1m97**

身体のコンドディションは悪くなかったが、直前の食事のタイミングが悪く、体に力が入らず動きのメリハリがなかった。体調の悪化を感じ、パスをせず慎重に試技を重ねた事で運良く7点を獲得したが本人としては非常に不本意な結果となった。

##### **3位 田中祥平(2) 1m97**

アップと違い、本番になると体はよく動いていた。しかし練習跳で軽く跳べていた180を本番ではギリギリ。緊張による助走距離のミスが原因と思われる。185からはそこを修正して跳びクリア。197では自己ベストを意識して力が入り2回失敗、後がない3回目は思い切った跳躍で成功。2mは3回失敗、しかし3回目は高さは出ており手応えを感じた。

##### **9位 藤井佳祐(2) 1m85**

練習で踏切位置や助走が全く合わず急遽170から開始することに。170でも助走が全く合わず2本目まで踏み切ることができず高さが出ない。3本目は助走を気にせず踏み切ることのみ考えてなんとかクリア。175と180はバネだけで跳ぶ。185の3本目は今回の跳躍で1番高さが出てクリア出来たが、助走自体はよくは無かった。188も助走が合わず跳ぶことが出来なかった。全跳躍をみて今回よかった跳躍は1本も無かった印象。助走のリズムと流れも全て違いまた踏切も全く出来ていなかった。しかし課題がたくさん見つかる大会であった。

#### **男子棒高跳 決勝**

##### **工藤航平(3) NM**

2年連続記録なしという不甲斐ない成績に終わる。練習では足が合わず、また幅のない跳躍となっていたが徐々に修正し3本目では比較的良い跳躍ができた。自分の課題はわかっていながらどのように改善していけば良いのか分からず記録が伸ばせない状況が続いているが、様々な意見を聞いて感覚として身に付けられるようにしたい。

##### **2位 高橋拓実(3) 4m80**

練習から調子が上がらず4m60からの跳躍。安全な跳躍で動きが小さかったものの、1回目で成功。4m70の1回目、体はバーを余裕で越えたが幅がない跳躍となり、落としてしまう。2回目は試技が流れてしまい失敗。後がない3回目、またもや安全で小

さな跳躍となったが、ぎりぎりクリアした。この時点で試技数差で3位。4m80の1回目、この日一番の跳躍はバーを大きく越え成功。この時点で試技数差で2位。4m90の1回目は、跳躍が流れてしまい失敗。2回目3回目はバーの位置を調整し臨んだが、どちらも体は越したものの上からバーにあたり落としてしまい競技終了。3年連続の2位、全カレにあと1歩である。

### 男子走幅跳

#### 2位 岡部大輝(M1) 7m24 (+3.3)

1本目はフェール。踏切足に違和感を覚える。2本目はケガを気にしているせいか踏切の入りを失敗し、とても変な跳躍となった。3本目で7m24cmを出す。フェールを恐れて踏切を合わせにいった。踏切はある程度しっかり決まった。4,5本目は足の痛みによりパス。6本目は助走が近すぎ、フェールに。直前にケガした部位をかばって跳躍を行ったせいで別の部位に負荷がかかり、軽く痛めてしまった。今回の試合で如何にベストな状態で試合に臨むことが大切であるかを学んだ。

#### 10位 今泉裕真(1) 6m31 (+2.5)

1本目は6m16。記録を出そうとして、踏切前の数歩を力んでしまって減速した上に、踏切が潰れた。激しく潰れたわりには跳べたほう。2本目は6m31。踏切前の数歩を力まずに跳ぶことができた。着地跡を見ると左右で落ちた場所が違っておりもったいなかった。3本目はフェール。助走から踏切の流れが1番よく、距離にも2本目より跳んでいたのも悔しいフェールだった。

#### 17位 佐藤文哉(3) 6m06 (+1.8)

佐藤は動きのキレもあり、調子が良さそうであったが、1本目の試技の際に右足を痛めてしまい、以降の試技をパスした。

### 女子走幅跳 決勝

#### 9位 渡邊朝美(3) 4m84 (+0.9)

1本目はフェール。とりあえず走って跳んだという感じでまとまりがなかった。2本目は4m80。助走前半はうまく加速していたが後半失速した。3本目は4m84。助走のラストが全くリズムアップできず、踏切がふわっとしてしまう。3本ともキレがなかった。踏切でガツンという感覚がなく、しっかり踏み切れない跳躍で終わってしまった。三段跳との切り替えがうまくいかないようだ。

#### 14位 後藤文子(4) 4m39 (±0.0)

1本目はフェール。2本目は4m33。助走の勢いに負け、踏み切りで潰れている。3本目は4m39。2回目の踏切動作を修正しきれず、また踏み切りで潰れている。全体的に助走に改善が見られたが、踏み切りに課題があり、思うような記録が残せなかった。また、1本目で記録を残せていない。今後しっかりと改善して、北大戦以降対校戦に臨んで欲しい。

### 男子三段跳 決勝

#### 9位 須藤海(3) 14m09 (-0.4)

練習跳躍は助走が乗っており、キレがあった。1本目は13m69。練習跳躍の疲れが残っており、助走が乗り切れずスピードが無かった。2本目は14m09。ある程度助走が戻ってきたが、踏み切り板を踏まずイマイチな跳躍となった。3本目は13m39。疲れた助走で、さらに跳躍動作もダブルアームがシングルアームに戻ってしまい、おもいきり潰れてしまう。全体的に疲労感があり、調整不足感が否めない。力が出し切れ無かった印象だったが、これからの練習でダブルアームを無意識でもできるようにし、調整をうまく合わせれば、大きな飛躍が望めるだろう。

#### 14位 小幡卓哉(3) 12m98 (±0.0)

1本目はフェール。助走が遅くストライドが伸び、踏切板を超えてフェールとなっ

た。2回目は12m85。助走のスタートを少し後ろにずらしたことでファールにはならなかったが、助走の遅さは1回目と変わらず記録は伸びなかった。3本目は12m98。助走のスピードは上がったが脚が流れておりステップ、ジャンプがつぶれていた。全ての跳躍で助走が安定していなかった。

#### 15位 千葉優人(5) 12m91 (+0.1)

種目転向後初の対校戦。1本目はマイルリレーの予選の後で公式練習ができなかったこともあり、助走を合わせるのに精一杯。2本目には無難に合わせたがステップが潰れて12m91に留まった。3本目はアドバイスに従い助走で体を大きく使うも助走が合わずファール。悔しさの残る結果となった。

#### 女子三段跳 決勝

#### 3位 渡邊朝美(3) 11m01 (-0.8)

1本目はファール。全体的にメリハリなく間延びした助走。2本目は10m69。とりあえず記録を残そうという意識からか、助走スピードがあがらず、さらにステップでつぶれた。3本目は10m99。スピードをあげたがジャンプでつぶれた。しかし感覚を掴んだ感じはあった。4本目は10m64。高さが普段より低く、空中での余裕が全くなかった。5本目は10m90。力みから助走の最後がばらばらになり、跳躍動作が小さくなってしまった。6本目は11m01。助走がうまくいき跳躍もまとまっていた。いつもよりつぶれた跳躍が多かった。助走スピードをどこまであげられるかがまだよくわかっておらず、安定していない。

#### 8位 後藤文子(4) 9m63 (+1.4)

前日の走幅跳の反省を生かして1本目で記録を残す。2,3回目は助走も乗り、しっかりした跳躍であったが、ファール。決勝。4,5回目は疲れが現れ、跳躍動作失敗。6回目は意地で残した様子。経験不足以上に後半へ進むほど集中力の甘さが見られた。今後、記録を残すためにはホップ、ステップ

で水平方向へきちんと跳ぶこと。またしっかり跳びきる筋力、集中力が課題であろう。

#### 男子砲丸投 決勝

#### 4位 楠哲也(1) 12m09

試合に慣れてきたこともあってか、テンション自体はいい状態。全試技を通して腰が高く、足からの力を伝達できていなかった。1投目は砲丸の上部をついてしまう。2投目は砲丸を手首に乗せてしまい突き出せなかった。3投目はグライドからの投げの動作がスムーズにできなかった。4投目は腰が引けて手投げになった。5・6投目とも、フォーム自体は悪くはないが迫力がなかった。この日が最終日ということもあり、体に疲労が残っていたため3投目以降は爆発力がなかった。6投目でベストを出し2位まで38cm、3位まで6cmという悔いの残る結果に。

#### 7位 大塚一途(1) 11m06

大塚が最も力をいれている砲丸投。筋力不足を補うために数日間投げることを避けてバネを溜めていたが、この思い入れの強さが仇となった。1投目ではファールを恐れてスピードもキレも無い投げになってしまい、続く2投目も溜めていたバネのおかげで11mラインを越えることこそできたものの、明らかに腰が引けていた。3投目は焦りから手を滑らせ、明らかなショートに。決勝の投擲では溜めこんでいたバネを使い果たし、2投目以上の記録を出すことは叶わなかった。次回以降の大会に向けて、まずは失敗を恐れすぎないようなメンタル面でのトレーニングを重視し、その上で6投投げ切るだけの体力をつける必要がある。

#### 14位 箕輪純尚(3) 9m76

晴れて暖かく、絶好のコンディションの中での試合。アップや公式練習での動きもよく、自己ベストの更新が期待された。だが、グライドからの流れ自体は悪くなかったが、上体が立ってしまい、下半身を使った投げが一切できず砲丸に全く力を伝える

ことが出来なかった。2,3 投目と工夫をして改善を試みたものの、同じような投げに終始してしまい不甲斐ない結果に終わった。

### **男子円盤投 決勝**

#### **3 位 楠哲也(1) 37m94**

全試技を通して体が前に流れ、最後まで円盤が体に巻き付かず、すっぽ抜けた投擲が続いた。また、高校の時と比べて腰の高さも高く、これは足腰の筋肉が全く無くなっていることの表れと思える。1 投目は自らファールをする。2 投目は腕の振り、角度自体は良かったが、円盤が体に巻き付かず途中で離れてしまった。3 投目も 2 投目と同じであった。4 投目はターンの入り～パワーポジションまでは良かったがこれも最後は 2・3 投目と同じような振り切りとなってしまった。5 投目あたりで試合の感覚に慣れてきた。6 投目で記録を更新し、3 位になるが、自分自身全く満足のいく投擲ではなかった。

#### **13 位 佐藤雄也(3) 24m88**

1 投目は体を大きく使えておらず、動作のスピードは遅かった。1 投目の反省を踏まえて 2 投目ではスピードを速めようとしたが、左腕と胴体の動きに右腕がついてこられず体が開いてしまったため円盤が右に逸れファールになる。円盤に角度がついていないことも気になっていたのも、3 回目の試技では地面を蹴って下半身の力も使って投げようとするも結果として出来ず、腕投げのまま試技を終えた。

#### **14 位 大塚一途(1) 24m87**

砲丸投をメインに練習してきたため、不慣れな円盤の 1 投目はターンを入れずに投げてひとまず記録を残すことを優先した。2 投目の試技順からは、記録を伸ばしたいと思いハーフターンで投げる。しかし上手く体をコントロールできずにファールに。3 投目でもこの失敗を引きずり、全力で投げることができず記録を伸ばせなかった。練習不足を痛感させられた試合であったの

で、次の大会までに十分な練習をしておかねばならない。

### **女子円盤投 決勝**

#### **6 位 青木千景(3) 29m87**

1 投目は、記録を残しにいき 29m 付近に投げるも、その後の 2、3 投目もパッとしない投げが続いた。全体的に普段よりもターンが小さく、ターンスピードも上がらず、振り切りによる投げになった。ベスト 8 後の 3 投も、なんとか状況を打開しようと模索するも、ファールや円盤をうまく指に引っ掛からない投げとなってしまった。調子自体は悪くは無かったので、メンタル的な問題と試合展開の悪さが目立つ試合だった。3 年生として自分の投擲を確立し、試合でもその力を発揮できるようにしたい。

### **男子ハンマー投 決勝**

#### **9 位 酒井利晃(M1) 34m14**

冬季練習不足の状況から臨んだ試技。1 投目は 3 回転目のターンがその場回りになってしまったがそこそこの記録を出す。2 投目は少し勢いを増してこの日最高の記録を出す。3 投目は大きなスイングでハンマーの加速を稼ぐがフィニッシュで力んで引っ張ってしまいファール。距離は二投目とさほど変わらなかった。記録は悪くなかったが 3 投目で順位を落とし惜しくも 9 位に。

#### **13 位 野尻英史(1) 30m05**

インカレのデビュー戦兼人一倍長いブランクからの復帰戦。規格の変化や筋力の低下はあったものの調子は悪くなく、公式練習の 1 投目は 2 ターンとしてはほぼ高校時代と変わらない投擲ができた。しかし直前の去年の東北 IH の優勝者の投擲に気圧され、力みすぎて本来の投擲ができなかった。2、3 投目は 3 ターンに挑戦したものの 2 投目は腕が強ばって投げたとき指が引っ掛かり、3 投目は 2 ターン目にステップがずれたため体勢を維持できなくてともにファ

ールだった。重要な1投目である程度の記録を残せなかったのが1番の反省点だろう。

#### 14位 箕輪純尚(3) 28m69

重心が高く、回転が安定していないのが最大の問題点である。1投目はまともに回れずハンマーに引っ張られてフェール。2投目はリズムよく回ることができ、この日のベストを出した。ただ、スピードが上がらず記録は伸びなかった。3投目までの時間にターンの確認をし、記録を伸ばそうとしたが、スピードを求めて回転がぶれ、3投目は体勢を崩してしまった。30mを超える投げをするためにももっと練習をし、七大戦までにはターンを確立したい。

#### 男子やり投 決勝

#### 12位 楠哲也(1) 51m29

入部してからこれまで、高校のスタイルと変わって「助走ありき投げ」を練習してきて、それを試す機会と思い試合に臨んだ。1・2投目とも振り切りがうまくいかず残念な結果となった。3投目は短助走に変えるも角度がついてしまいやりが空中で失速した。今後の練習方針を変えて前のスタイルである「投げありきの助走」を突き詰めていくべきだと感じた。2投目がこの日のベストであった

#### 17位 工藤航平(3) 46m27

春期に続いて低調な記録となった。天候も体のコンディションも優れないなかでの出場であったが、体をかばって全体的に動きが小さくなった。3投目は踏込を強くしてブロックを意識して投げることで多少記録を伸ばすことができたが、上半身があまり使えない分良い投擲はできなかった。

#### 男子十種競技

#### 佐藤弘隆(3) DNF

100mはスタートでとびだせなかったが、焦ることなくしっかり加速しながら走りきることができた。走高跳は高さが上がっても助走のスピードをあげながら踏み切ることができた。しかし跳べるのに任せて少し本数を多く跳びすぎた。400mはスタートからリラックスして突っ込み200mでトップにたち、そのまま大きく減速することなく一着でゴール。後半競る人がいなかったためタイムはあまりよくなかった。棒高跳は最初の跳躍はポールを押しきれず真っ直ぐポールが立たなかったが、二跳躍目からは修正できたが、踏切の際足を痛めてしまい途中棄権となってしまい、残念だった。

#### 金田朗大(4) DNF

自分の競技力の底を見たような試合であった。8種時代、右鎖骨骨折の状態で行ったことがあったが、その時とほぼ同じ記録である。二日目をやっていたらさらに醜態を晒していたであろう。後悔はもちろん多分にあるが、状態を考えればある程度納得できる結果であった。まず第一に体の再構築を図っていく必要を感じた試合であった。

#### 木曾真吾(1) DNF

木曾は大学初レース。100mはスタート直後に上体が浮き上がってしまい勢いを殺してしまった。コンディションに不安があったのか、そのまま加速せずに最後尾でゴール。100mのみで棄権になる。



## 自己ベスト更新者一覧(1/12～5/17)

- ・男子 110mH  
本間大輔(M1) 15"46(+2.0m)  
(学連春季)
- ・女子 1500m  
榊原真璃子(4) 5'03"48 (東北 IC)
- ・男子 3000m  
本田雄生(3) 9'32"02 (仙台市記録会)
- ・女子 3000mSC  
宮間志帆(4) 11'22"83 (東北 IC)
- ・男子 5000m  
本田雄生(3) 15'50"06 (仙台大記録会)
- ・男子 10000m  
出口武志(3) 32'02"00 (学連春季)  
本田雄生(3) 33'40"49 (学連春季)
- ・男子 10000mW  
森渉(2) 57'19"19 (東北 IC)
- ・女子 10000mW  
西條詩織 56'36"16 (東北 IC)
- ・男子ハーフマラソン  
本田雄生(3) 1:12'26" (仙台ハーフ)  
藤原啓(2) 1:13'55" (日本学生ハーフ)
- ・女子三段跳  
後藤文子(4) 9m63(+1.4) (東北 IC)

## ○今後の予定

- ・6月20日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (円山陸上競技場)
- ・7月18～19日 第66回東北地区大学総合体育大会 (福島・みんなのスタジアム)
- ・8月1～2日 全国七大学対校陸上競技会 (仙台・宮城野原)
- ・8月8～9日 第37回北日本学生陸上競技対校選手権大会 (岩手・岩手県営運動公園)

## ○編集後記

今年の東北インカレは去年の総合二位から三位へと全体順位は落ちてしまいましたが各選手、課題の見つかる大会になりました。来月には北大戦、八月には仙台で七大戦が開催されます。ホスト校として七大戦を盛り上げていくことはもちろんですが、対抗戦で活躍できるように部員一同精進してまいりたいと思いますので今後とも東北大学陸上競技部に力強い応援をよろしくお願いいたします。

文責 副務 出口武志

東北大学陸上競技部三秀会  
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1  
東北大学評定河原グラウンド内  
hukumu\_tohoku\_ob2sin@yahoo.co.jp